

(株) 東郷長島工場開所式 地域に根差した企業を目指して

昨年、本町と立地協定を締結した株式会社東郷（鹿児島市・東成生代表取締役）が10月19日、長島工場開所式を行いました。

同社は閉校になった田尻小学校跡地の校舎建物を工場として利用し、通信機器の金型の製造などに取り組んでいます。

開所式には、川添町長や林義明町議会議長、地元関係者が参加し、工場内部の見学が行われました。

東代表取締役による最先端の製品を供給している製造ラインの説明を参加者は興味深く聴いていました。

東代表取締役は「事業拡大、雇用増加に努め、地域に根差した企業を目指す」と展望を話しました。



↑国内外に最先端の製品を供給する工場の内部を公開

鷹巣小で稲刈り体験 自ら植えた稲を収穫

鷹巣小学校（大野憲久校長・197人）の5年生49人が10月24日、学校近くの水田の稲刈りに挑戦しました。

6月に児童たちが苗を植えた稲は順調に育ち、北村秀紀さん（本町）から、稲刈りから食卓にご飯が並ぶまでの説明などがありました。

慣れない様子で鎌を使っていた児童も一緒に参加した保護者から手ほどきを受けながら、てきぱきと稲刈りをしていました。

下平亮栄君は「束にした稲を結ぶ作業が難しかった」と感想を話しました。

川床中学校キャリア教育体験活動 建設業について学ぶ

川床中学校（脇田武志校長・53人）では、10月26日、3年生19人を対象に地元企業で働くかたを講師として招き、将来の生き方を考えるキャリア教育体験活動を実施しました。

今回は町内の建設会社から組織される長島朝日会の会員を迎え、重機の操作体験や建設業に関する講話を受けました。

バックホー、ホイールローダーを使用した重機の操作体験では、生徒は貴重な経験に目を光らせ、会員からの指導を熱心に受け取り組んでいました。

講話では、仕事のやりがいなどの質疑応答も設け、生徒は興味を持った様子で耳を傾けていました。

白鳥聖^{あきら}さんは「馴染みがなかった建設業に興味を持てた」と充実した様子で話しました。



↑バックホーの操縦に興味津津の生徒



↑根気よく稲を結ぶ児童